

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 5 部門第 3 区分

【発行日】平成30年10月18日 (2018.10.18)

【公開番号】特開2017-58057(P2017-58057A)

【公開日】平成29年3月23日 (2017.3.23)

【年通号数】公開・登録公報2017-012

【出願番号】特願2015-182368(P2015-182368)

【国際特許分類】

F 2 4 D 17/00 (2006.01)

F 2 4 H 1/18 (2006.01)

【F I】

F 2 4 D 17/00 E

F 2 4 D 17/00 J

F 2 4 H 1/18 A

【手続補正書】

【提出日】平成30年9月7日 (2018.9.7)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

浴室水栓の上流側に配設される浴室水栓用即湯システムであって、  
給湯器側から伸びる第 1 流路と、  
前記第 1 流路から供給される水を加熱するための加熱手段と、  
前記加熱手段によって加熱された水を前記加熱手段の下流側に送る第 2 流路と、  
前記加熱手段を経由することなく前記第 2 流路と合流する第 3 流路と、  
前記第 2 流路および前記第 3 流路の下流側に設けられ、温度を調整可能な温度調整機構と、

前記浴室水栓から吐水終了後に、前記温度調整機構より下流側のお湯を排出する残水排出手段と、

前記加熱手段を制御する制御部と、を備え、

前記浴室水栓用即湯システムは、前記加熱手段によって供給される水が加熱されることにより膨張する膨張水を排出するための膨張水排出手段を有し、

前記膨張水排出手段は、前記加熱手段の下流側で且つ前記温度調整機構の上流側に設けることを特徴とする浴室水栓用即湯システム。

【請求項 2】

前記膨張水排出手段は、前記温度調整機構の上流で且つ温度調整機構の近傍に設けることを特徴とする請求項 1 に記載の浴室水栓用即湯システム。

【請求項 3】

前記膨張水排出手段は、前記温度調整機構と一体で構成されることを特徴とする請求項 1 に記載の浴室水栓用即湯システム。

【請求項 4】

前記浴室水栓から湯を吐水中である吐水モードと前記吐水モードが終了し、吐水を停止させる止水モードとを検知可能な吐止水モード検知手段をさらに備え、

前記制御部は、前記止水モードからの経過時間が短い時よりも経過時間が長い時の方が前記加熱手段が湯に与える熱量を高くすることを特徴とする請求項 1 乃至 3 の何れか 1 項

に記載の浴室水栓用即湯システム。

【手続補正２】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】００１１

【補正方法】変更

【補正の内容】

【００１１】

上記課題を解決するために、本発明に係る浴室水栓用即湯システムは、浴室水栓の上流側に配設される浴室水栓用即湯システムであって、給湯器側から伸びる第１流路と、前記第１流路から供給される水を加熱するための加熱手段と、前記加熱手段によって加熱された水を前記加熱手段の下流側に送る第２流路と、前記加熱手段を経由することなく前記第２流路と合流する第３流路と、前記第２流路および前記第３流路の下流側に設けられ、温度を調整可能な温度調整機構と、前記浴室水栓から吐水終了後に、前記温度調整機構より下流側のお湯を排出する残水排出手段と、前記加熱手段を制御する制御部と、を備え、前記浴室水栓用即湯システムは、前記加熱手段によって供給される水が加熱されることにより膨張する膨張水を排出するための膨張水排出手段を有し、前記膨張水排出手段は、前記加熱手段の下流側で且つ前記温度調整機構の上流側に設けることを特徴とする浴室水栓用即湯システムである。